

## 船舶事故調査報告書

平成24年6月28日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）  
委員 庄 司 邦 昭  
委員 根 本 美 奈

事故種類	浸水
発生日時	不明（平成23年8月15日 18時30分ごろ～16日 02時00分ごろの間）
発生場所	青森県八戸市八戸漁港 <sup>さめ</sup> 鮫地区 八戸港鮫内防波堤3号灯台から真方位172° 460m付近 （概位 北緯40° 31.8′ 東経141° 33.2′）
事故調査の経過	平成23年8月17日、本事故の調査を担当する主管調査官（仙台事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第五 <sup>やわた</sup> 八幡丸、2.2トン AM3-21321（漁船登録番号）、個人所有 8.08m（Lr）×2.07m×0.68m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数50、不明
乗組員等に関する情報	船長 男性 75歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和51年7月9日 免許証交付日 平成22年12月6日 （平成28年8月17日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	全損
事故の経過	本船は、八戸漁港鮫地区に係船中、漁具の整備を行っていた船長が、平成23年8月15日18時30分ごろ帰宅したのち、翌16日02時00分ごろ出港のために帰船したところ、甲板上まで浸水していた。 本船は、船長が海上保安部等に通報したのち、04時00分ごろ沈没した。 本船は、陸揚げされたのち、船舶修理業者による点検が行われたところ、機関室左舷側の喫水線付近に設けられていたビルジの排出口に取り付けられた機関室内の電動ビルジポンプ吐出側のビニールホースが破損しているのが発見された。
気象・海象	気象（八戸特別地域気象観測所）： 8月15日 19：00 天気 晴れ、風向 西南西、風速 6.3m/s 20：00 天気 曇り、風向 南西、風速 7.1m/s 21：00 天気 曇り、風向 西南西、風速 4.9m/s 22：00 天気 曇り、風向 南西、風速 7.1m/s

	<p>23:00 天気 晴れ、風向 南西、風速 4.8m/s  24:00 天気 晴れ、風向 南南西、風速 3.3m/s  8月16日  01:00 天気 曇り、風向 南南西、風速 5.0m/s  02:00 天気 曇り、風向 南南西、風速 3.8m/s  海象：波 なし</p>	
その他の事項	<p>本船は、電動ビルジポンプが機関室船尾側隔壁の中央部に設置され、2日に1回発停スイッチを操作して同ポンプを約10分間運転し、機関室内に溜まったビルジを船外へ排出していた。</p> <p>本船は、平成20年に中古で購入され、ビルジポンプ吐出側のビニールホースが排水口に逆U字に取り付けられており、約3年間使用していた。</p> <p>本船は、刺し網や錨を左舷側寄りに置き、左舷側に傾いた状態で係船しており、ビルジの排出口が喫水線より下方に位置していた。</p> <p>本船は、本事故前、機関室に溜まるビルジの量は増加していなかった。</p> <p>ビルジポンプ吐出側のビニールホースは、本事故後に調査したところ、ホースバンドが脱落した状態であった。</p> <p>本船は、ビルジ高位警報装置はなかった。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり あり なし 本船は、八戸漁港鮫地区においてビルジの排出口が船体傾斜により水面下にある状態で係船中、15日18時30分ごろ～16日02時00分ごろの間において、ビルジの排出口に取り付けられた機関室内の電動ビルジポンプ吐出側のビニールホースが経年使用により劣化して破損したことから、機関室に浸水したものと考えられる。
原因	<p>本事故は、本船が、八戸漁港鮫地区においてビルジの排出口が船体傾斜により水面下にある状態で係船中、ビルジの排出口に取り付けられた機関室内の電動ビルジポンプ吐出側のビニールホースが経年使用により劣化して破損したため、機関室に浸水したことにより発生したものと考えられる。</p>	
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビルジポンプ吐出側のビニールホースは、定期的に点検し、劣化や損傷を認めた場合は交換すること。</li> <li>・ビルジポンプ吐出側の配管系統に逆止弁を装備し、海水が機関室に漏水しないようにすること。</li> </ul>	